

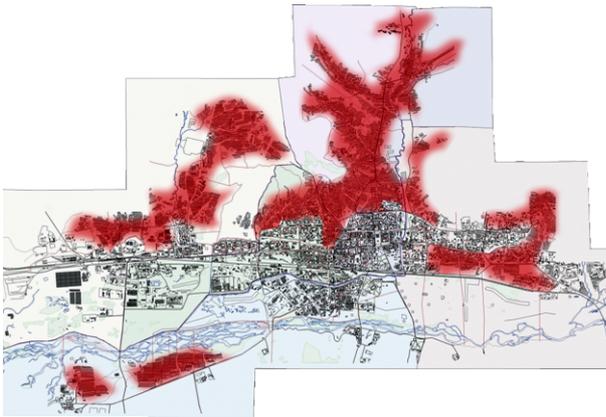
# So Far So Near 遊牧民の持続可能な都市

Ganzorig Luvsanjамts (指導教員 八尾廣)

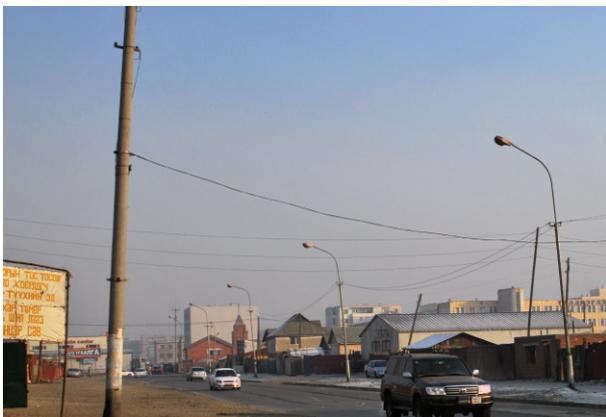
## 1 はじめに

モンゴル人は昔から遊牧生活を送って来た。1921年にソ連の傘下に入り、1989年に崩壊した時に完全に独立した国になった。その期間に現在の全ての都市が開発されたが、定住文化の国々とまったく同じようなものができた。その都市には伝統的な家畜産業が行えなくなり、自給自足的な生活が成り立たなくなった。

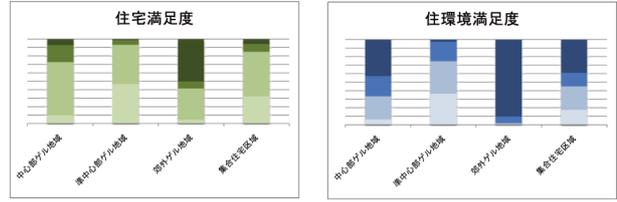
近年はゴミ問題、衛生問題、大気汚染問題、土壌汚染問題が首都ウランバータルで社会問題化している。その原因になっているのは主に北部に広がるゲル地域だ。現地の市民を対象に調査した結果、住宅満足度と住環境満足度は非常に低く、改善が必然であることがわかった。この問題を市民の生活を換えることで解決させる。



ウランバータルのゲル地域の地図



大気汚染と衛生問題の写真

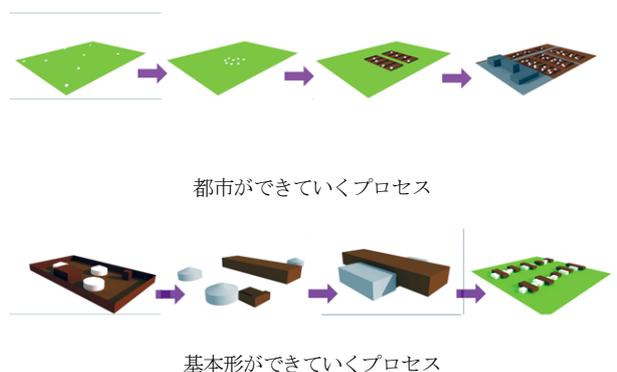


住宅満足度、住環境満足度

## 2 コンセプト

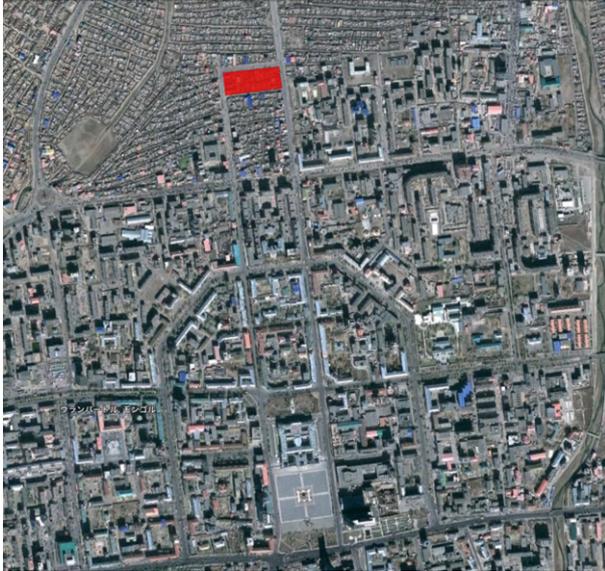
近年は都市に人口が集中し、ゲル（モンゴルに伝統的な移動式住宅）地域が北部に無計画的に拡大している。だが、その姿からモンゴルの生活スタイルや特徴を明確に把握できる。市民は数世帯で一つの敷地を共有し、平均的に3世帯で別々のゲルや木造住宅を利用して住んでいる。そのコミュニティーはマルチファミリーと呼ばれている。

しかし、この地域が都市の環境を悪質なものしている。国が主体になり、インフラ整備を行うことで効率的なエネルギーと水資源を住宅地域に供給する。そこに住民はボックス型の住宅を接続させて生活する。ボックスも国が主体になって大量生産し、およそ25万円で販売する。購入が困難な世帯のために住宅基金の制度を作る。初期段階ではゲルを共用部分に接続させることを許すが、だんだんボックス型に移行することを勧める。共用部分は1世帯から4世帯までの種類を準備し、一つの庭園を設ける。世帯数が多いマルチファミリーの共用部分は広く、少ないマルチファミリーの共用部分は狭くなる。それをユニットにして繰り返すことによって住宅地域が出来る。



### 3 敷地概要

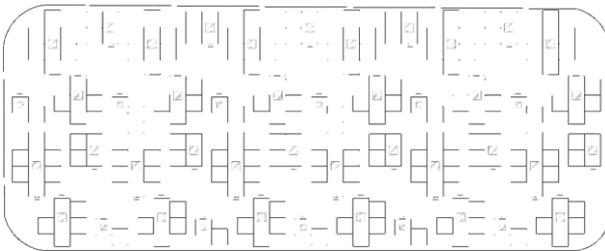
市によって区画整理事業が行われている北部に位置する 80000ha の土地の一部、15000ha の土地が対象になる。容積率の制限は 400% で、用途は住宅だ。



ウランバートルと敷地の上空写真

### 4 内容

住宅地域で市民による家畜産業と農業産業を許可し、日常生活品の生産を実現させる。地域内で移動は極力馬や徒歩、運送は牛車や馬車に限る。自動車の移動を制限するためにボンネルフ状の街路を設計する。街路は商店街のような造りにし、自給自足的な生活を図る。



住宅の配列例



商店街のイメージ

また、この集合住宅を設計することによってコンパクト

トシティが実現する。世帯数が増える度に、必要な共用部分がある場所へ引っ越す。その頻度は 10 年に一度だ。愛着のある場所から都内の別の場所へ移り、そこでまた愛着のある場所を築いていく。その結果、都市の変貌を市民全体で見届けることができ、またそれを作ることも可能になる。都市計画では土地=金であり、また人=金である。土地を動かすことは不可能だが、人は動く事ができる。住民が定期的に入れ替わることで均等な発展が可能になり、常に活性化され続ける。よって持続可能都市計画が成立する。



詳細模型写真詳細模型写真

定住文化によって築かれた都市が目指している未来の姿は遊牧文化の都市に容易に実現する可能性が高い。それには効率的なエネルギー供給と移動時間の短縮が必要だ。公共交通機関を整備し、自動車を減らす。都市全体に渡って土地の価値観を平等にできるような計画が重要だ。今後も現地でこのプロジェクトに取り組みたい。